

# 認知症BPSD対応研修

BPSD出現時の適切な対応を考えよう

事例3 異食

## 研修の進め方①

まずは次の事例を読み上げます。

## 【この教材のねらい】

今回配信する教材は、認知症ケア場面の事例を使い、さまざまな視点からBPSD(行動・心理症状)への対応について理解を深めていくものである。

事例の限られた情報から、どのような原因が考えられるか、どのような対応方法が考えられるかを共有し、今後の認知症ケアのヒントとして活用していただきたい。

## 【事例3】

Cさん、80代、男性、特別養護老人ホーム入所。  
脳血管性認知症

ときどき異食することがあり、職員は常日頃から注意していた。ある日、リビングのテーブルに座り、口をもぐもぐ動かしているCさんに職員が気づき、慌てて口の中を確認すると大量のティッシュペーパーを噛んでいた。

## 【事例3(続き)】

職員が「ティッシュは食べ物ではありませんよ！すぐに出してください！」と慌てて制止し取り上げようとするも、何も聞こえていないような素振りで制止を振り切りティッシュを食べてしまった。

## 研修の進め方②

グループになり、BPSDの原因として考えられる項目を話し合います。出てきた項目をワークシートに記入して、グループ毎にいくつか発表します。

参加人数がそれほど多くない場合は、一人ひとりに順番に答えてもらいます。

## ワーク1

### Cさんの異食の原因を探りましょう

認知症が及ぼす影響（中核症状）や  
心理面・身体面・環境面の影響など、  
考えられること・思いついたことを  
あげてみましょう

## 研修の進め方③

次の質問を参加者に投げかけ、ワークシートに記入してもらいます。

- ① 事例の職員の対応についてどう思うか
- ② どのような対応が適切だと思うか

## ワーク2

この事例の職員の対応はどう感じますか？  
問題と思う点をあげてください。

## ワーク3

あなたならどう対応しますか？  
適切な対応方法を考えてみましょう。

## 研修の進め方④

- ① 記入してもらったら、それを一人ひとり発表してもらいます。人数が多い場合は数人を指名して発表してもらいます。
- ② ワークシートを回収して、全員の考え方を整理し、フィードバックして、研修は終了です。

## 【この教材を終えるにあたって】

この研修には「正解」はありません。認知症ケアは、その人がどういう性格か、これまでどのような生活を送ってきたのか、何を望んでいるのか、などによって対応が異なるためです。

様々な対応方法を共有することで、その人に合った適切な対応ができるように「認知症ケアの引き出し」を増やしていきましょう。

お疲れ様でした。